

腫瘍内科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. がんの薬物療法を実践できる。
2. がんの集学的治療、チーム医療をアレンジできる。
3. がん診療における早期からの緩和ケアを実践できる。

研修目的

高齢者社会を迎えがんの罹患率、死亡率が上昇しており、どの専門領域でもがん診療の知識が必要とされている。様々な臓器のがんの診療を体験することにより、臓器横断的な視点で腫瘍内科学を学ぶ。

研修目標

◇ 一般目標

エビデンスに基づく標準治療を理解した上で、進行がんの多様性を念頭に置き、病態、病期、全身状態を的確に評価し、個々の患者に応じた全人的医療を実践できる。

◇ 行動目標

- 1) 問診によりがんの既往歴、家族歴を詳細に聴取することができる。
- 2) がんの症状および随伴症候群に注意し理学的所見を得ることができる。
- 3) 診断確定のための検査を立案できる。
- 4) がんの病理診断を理解できる。
- 5) 画像所見から病期分類ができる。
- 6) エビデンスに基づいて標準的治療を選択できる。
- 7) 患者及び家族に適切な説明ができる。
- 8) がん薬物療法の有害事象に対する支持療法ができる。
- 9) 多職種と連携したチーム医療を実践できる。
- 10) 緩和ケアおよび精神的サポートができる。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

- 1) 消化器癌 30 例
- 2) 軟部肉腫 5 例
- 3) 原発不明癌 2 例
- 4) 神経内分泌腫瘍 1 例
- 5) 遺伝性腫瘍 1 例
- 6) オンコロジーエマージェンシー 5 例
- 7) 腫瘍随伴症候群 3 例
- 8) がん性疼痛 15 例
- 9) 中心静脈カテーテルポート造設 3 例

(3ヶ月の研修期間中に初期研修医が経験できる疾患と手技、および経験可能な具体的な数(数値目標)の記入をお願いします。)

研修方略

外来；新患外来では指導医とともに問診、理学的所見、検査結果から病態、病期、全身状態を評価し、適切な治療を立案する。

再来では指導医とともに検査結果、全身状態、有害事象の程度を評価し、がん薬物療法の実施の可否を判断する。

病棟；入院患者の回診を通じて、有害事象に対する支持療法、疼痛コントロールや心理的サポートを習得する。

研修評価

外来、病棟での診療を通じてコミュニケーション能力を評価します。経験した症例の報告書を総合内科専門医試験の症例報告の形式で作成し、研修を総括しながら診療力を評価します。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	外来	病棟回診	がんボード (月1回)
火	外来	病棟回診	
水	外来	病棟回診	
木	外来	病棟回診	症例検討会・抄読会
金	外来	病棟回診	

(表は、適宜加除修正ください。)

指導責任者および指導医

指導責任者： 下平秀樹

指導医： 工藤千枝子

学生(4~6年生)や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否
参加可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

日本臨床腫瘍学会学術集会、日本内科学会総会にて発表

同時期に受け入れ可能研修医数(1クール：3ヶ月)

1名/1クール